

授業科目	保育実習Ⅱ			
担当教員	後藤直美・西川由美子			
開講時期	講義形態	実習	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めるとともに、保育者の業務内容や職業倫理について実践に結び付けて理解することを目的とする  
 保育の計画、観察、記録について実際に取り組み、理解を深める。また、既習の教科や「保育実習Ⅰ」の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解することを目的とする  
 実践後には、自己評価を踏まえ、保育者としての自己の課題を明確化することを目的とする

- 授業の到達目標**
- (1) 乳幼児理解や教材研究を積極的に行い、指導計画を立案することができる
  - (2) 保育の計画に基づき、必要な援助を考え、実践できる
  - (3) 乳幼児の遊びや活動に積極的にかかわり、実践できる
  - (4) 保育の準備、片付け等の環境整備を積極的に行い、実践できる
  - (5) 保育者のアドバイスを心得、自らの実習を省察し、よりよい保育を目指すための課題を記述することができる

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・実習前には予習として、実習事前指導に従い、書類作成、教材準備、実習の手引きの確認などを行う。また、指導計画の立案をする(1時間)  
 ・実習後には、毎日必ず実習の振り返りを行い、実習記録の作成を行う。また、子ども理解を深めるための記録を作成する(1時間)  
 ・実習中は予習、復習を合わせて2時間以上を行うこと

回数	授業計画・内容
	<b>【保育所実習の主な内容】</b>
	保育所の役割や機能の具体的な展開
	・養護と教育が一体となって行われる保育
	・保育所の社会的役割と責任
	観察に基づく保育理解
	・子どもの心身の状態や活動の観察
	・保育者等の動きや実践の観察
	・保育所の生活の流れや展開の把握
	保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
	・「環境を通して行う保育」「総合的に行う保育」の理解
	・保護者支援及び地域の子育て家庭への支援、地域との連携
	指導計画の作成、実践、観察、記録、評価
	・保育課程に基づく指導計画の作成・実践・評価・改善
	保育者の業務と職業倫理
	・多様な保育の展開と保育者の業務・職業倫理
	自己課題の明確化

**成績評価の方法・基準**  
 実習園の評価 70%、提出物 30%、計 100%

**教科書**  
 『保育所保育指針解説書』・『幼稚園教育要領解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館  
 『保育・教育実習を深める』・『保育・教育実習から学ぶ(第2版)』 愛智出版  
 『保育の計画と方法(第3版)』 同文書院

**参考書・参考資料**  
 『実習の手引き』

**その他(学生へのアドバイス)**  
 「実習の手引き」に記載されている「実習参加条件」に従って、実習参加の可否を決定する  
 実習後、「実習記録」の提出をする  
 実習する地域、施設によって、実習に必要な手続きや健康診断などを必要とする場合がある

授業科目	保育実習指導Ⅰ・Ⅱ			
担当教員	後藤直美・西川由美子			
開講時期	講義形態	演習	単位数	一単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
 保育所の特徴・乳幼児の生活や遊び・保育者の職務等の保育実践の実践について理解する。「保育実習Ⅱ」に向けて自ら必要な準備に取り組み、実習に意欲的に参加する姿勢をもつ。実習終了後は事後指導を行い、保育者を目指すために必要な課題を明確に記述することができることを目的とする  
 「保育実習Ⅰ」の経験を基に主体的に実践することを目指す。実習に必要な書類や教材の準備を行うとともに、部分実習や研究保育に向けて、指導計画の立案ができるようになることを目的とする

- 授業の到達目標**
- (1) 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に考えることができる
  - (2) 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育を実践しようとするができる
  - (3) 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶことができる
  - (4) 保育者の専門性と職業倫理について理解し説明できる
  - (5) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・実習に必要な書類作成、教材研究、制作物、記録等授業内で説明を受けた後、全て予習・復習が必要となる。毎回1時間行うこと  
 ・止むを得ず欠席した場合は授業と同時間の補充を行う

回数	授業計画・内容
	実習の内容と課題の明確化 (1)「保育実習Ⅱ」の内容
	(2)「保育実習Ⅱ」の課題
	実習による総合的な学び
	(1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
	(2)子どもの保育と保護者支援
	保育実践力の育成
	(1)子どもの状態に応じた適切ななかかわり①0.1.2歳児 子どもの状態に応じた適切ななかかわり②3.4.5歳児
	(2)保育の表現技術を生かした保育実践①0.1.2歳児 保育の表現技術を生かした保育実践②3.4.5歳児
	(3)教材研究(制作・実践練習)
	実習の計画と観察、記録、自己評価
	(1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
	(2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
	(3)「保育実習Ⅱ」に向けての指導計画の立案
	保育者の専門性と職業倫理
	実習の事後指導 (1)実習の総括と自己評価
	(2)保育者としての課題の明確化

**成績評価の方法・基準**  
 提出物 50%、教材研究・制作物 30%、授業ファイル 20%、計 100%

**教科書**  
 『保育所保育指針解説書』・『幼稚園教育要領解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館  
 『保育・教育実習を深める』・『保育・教育実習から学ぶ(第2版)』 愛智出版  
 『保育の計画と方法(第3版)』 同文書院

**参考書・参考資料**  
 『実習の手引き』

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業内で配付する資料は必要事項を記入して規定の「授業ファイル」に整理して綴じる。「授業ファイル」は授業終了時に提出すること  
 この授業は、「保育実習Ⅱ」の事前・事後指導を行う。授業に全出席していることが「実習の参加条件」なので欠席をしないこと  
 「特別講義」「交流会」などの実習にかかわる行事に参加する

授業科目	子どもの保健演習				
担当教員	一ノ尾 志保				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		○	◎		◎

**授業の目的**  
 保育に関わる人として、子どもの健康や安全に係る保健活動を理解し、その行動をとるための知識・技術を身につける。また、病気・事故など緊急時の対処をすることができる。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもの発達段階の特徴と関連づけた保育・養護の方法を説明することができる。  
 (2) 子どもに起こりやすい事故や病気の予防・応急処置をすることができる。  
 (3) 健康・安全に係る保健活動の計画と評価について説明することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 1～15 回まで毎回学んだことをテキストで復習、記録し提出する(30 分)。  
 1～15 回まで子どもの保健に関する新聞記事の考察をする(30 分)。  
 14～15 回 試験準備として合計 2 時間自己学習する。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション、子どもの健康観察(バイタルサイン測定)
2	子どもの成長発達の特徴と養護(抱っこ、おんぶの方法)
3	子どもの成長発達の特徴と養護(着替え、おむつ交換の方法)
4	子どもの成長発達の特徴と評価(身体計測、評価方法)
5	保育の環境・子どもの感染症の予防と対策(手洗い、環境づくり)
6	子どもの生活習慣と養護(歯みがきの方法)
7	子どもの生活習慣と養護(身体の清潔方法)
8	症状の観察および看護(吐物処理、消毒方法)
9	症状の観察および看護、事例検討(グループワーク)
10	個別に配慮が必要な場合の対応(薬・エビペンの扱い方)
11	乳幼児に起こりやすい事故と応急処置(乳幼児の救急蘇生法)
12	乳幼児に起こりやすい事故と応急処置(けがの特徴と処置法)
13	けがをしたときの処置・対応(グループワーク)
14	災害への備えと危機管理
15	保育における保健活動の計画および評価(グループワーク)
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
 復習内容、新聞記事考察等提出物 30%、筆記試験 70%、計 100%

**教科書**  
 「これだけはおさえて！ 保育者のための子どもの保健 II」(創成社) 鈴木美枝子編著

**参考書・参考資料**  
 「子どもの保健 I」「子どもの保健 II」(ななみ書房) 佐藤益子編著  
 「保育を学ぶための子どもの保健 I」(建帛社) 堀浩樹・梶美穂編著

**その他(学生へのアドバイス)**  
 テキスト・配布資料は毎回持参する。母子健康手帳を確認しておく。  
 演習には積極的に協力し合って参加すること。  
 欠席した授業の内容はテキストと配布の資料で自己学習し、提出すること。

授業科目	子どもの食と栄養 I				
担当教員	田中 秀吉				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎		◎

**授業の目的**  
 幼少期は将来の健康につながる正しい食習慣を身に付ける大切な時期である。本科目では、専門職として必要とされる食と栄養、食育に関する基礎的知識を身につける。また、それらをふまえた上で授乳や離乳の意義を理解し、調乳方法や発達段階に合った離乳食について実践的に理解する。

**授業の到達目標**  
 (1) 栄養素の種類と機能、栄養素と食品の関係など小児期栄養の基礎知識をふまえて、健康な生活を送るために必要な食生活のあり方を説明することができる。  
 (2) 母乳と人工乳の栄養について理解し、人工乳を正しく、衛生的に調製することができる。  
 (3) 子どもの発達段階と食生活を理解したうえで、発達に合った離乳食を作り、乳児への適切な与え方について工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 (1) 授業内容は、毎回 1 時間は復習しておく。  
 (2) 課題レポートは、参考文献等を参照したうえで 1 時間以上かけ正しく丁寧に書く。

回数	授業計画・内容
1	ガイダンス、授業関連プリントの配付
2	健康の概念と基礎知識
3	健康障害の病態と予防
4	健康障害改善食
5	小児期の食生活の現状と問題点
6	小児期栄養の重要性
7	小児の栄養特徴
8	妊娠期の栄養と食生活
9	妊婦用簡単レシピ
10	小児の身体発育
11	小児の運動機能と精神の発達
12	乳児期の授乳の意義
13	乳児期の栄養特徴
14	育児用ミルクの調乳
15	子どもの喜ぶ簡単おやつ作り
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 課題レポート 100%  
 提出期限は、ガイダンス時に指示する

**教科書**  
 『改訂 子どもの食と栄養』 岡崎光子編著 光生館

**参考書・参考資料**  
 関連プリント(レシピなど)

**その他(学生へのアドバイス)**  
 (1) 調理実習時は、エプロン、三角巾(バンダナ可)、靴下の着用を受講条件の必須とする。また、装飾類(ピアス、指輪など)、マニキュアなど調理に不適切なものを身に付けての受講はできない。  
 (2) 調理実習時は、食器拭き用のタオル 1 枚を持参する。

授業科目	子どもの食と栄養Ⅱ				
担当教員	田中 秀吉				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎		◎

**授業の目的**  
「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ内容をもとに、専門職として必要となる食及び栄養の知識を深めることに加え、幼児期の献立の調理実習を通して、幼児期の望ましい食事や食べる環境のあり方について習得する。  
また、現代の子どもの食の状況やその問題点を踏まえ、一人ひとりの「べる力」を的確に支援できる能力を身につける。

- 授業の到達目標**
- (1) 子どもの発達段階に合った食育のあり方について、説明をすることが出来る。
  - (2) 幼児期の年齢に合った食事・食事環境を整え、工夫することができる。
  - (3) 食物アレルギーについて理解し、除去食を作ることができ、万が一の誤食事故の発生に適切に対応することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**

- (1) 授業内容は、毎回1時間は復習しておく。
- (2) 課題レポートは、参考文献等を参照したうえで1時間以上かけ正しく丁寧に書く。

回数	授業計画・内容
1	栄養と栄養素
2	栄養素の働き
3	栄養素の消化・吸収と代謝
4	食品の基礎知識
5	食生活の基本
6	食欲のしくみ
7	授乳期の母乳栄養および人工栄養
8	離乳の定義と必要性
9	離乳食の応用調理
10	幼児期における間食の意義
11	食物アレルギーのある子どもへの対応
12	幼児期の食事の実際
13	幼児のお弁当作り
14	子どもの喜ぶ簡単おやつ作り
15	総まとめ・「Ⅰ」「Ⅱ」の復習
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
課題レポート50%、筆記試験50%、計100%の総合評価とする。

**教科書**  
『改訂 子どもの食と栄養』岡崎光子編著 光生館

**参考書・参考資料**  
関連プリント(レシピなど)

- その他(学生へのアドバイス)**
- (1) 調理実習時は、エプロン、三角巾(バンダナ可)、靴下の着用を受講条件の必須とする。また、装飾類(ピアス、指輪など)、マニキュアなど調理に不適切なものを身に付けての受講はできない。
  - (2) 調理実習時は、食器拭き用のタオル1枚を持参する。
  - (3) 総まとめでは、「Ⅰ」「Ⅱ」すべての内容で筆記試験を行うため、この科目のみを履修することは好ましくない。

授業科目	家庭支援論				
担当教員	細江 逸雄				
開講時期	前・後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		○	◎	◎	

**授業の目的**  
保育者として、保護者や子育て家庭への支援が適切に行えるように、現代の家庭が置かれている状況や抱える問題を理解する。また様々な子育て支援の関係機関の連携を理解し、支援者としての基本的態度を修得する。

- 授業の到達目標**
- (1) 家庭の意義とその機能を理解し説明できる。
  - (2) 子育て家庭を取り巻く状況及び支援体制を理解し説明できる。
  - (3) 多様な支援の展開と関係機関との連携を理解し説明できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
各回の授業について、内容の整理及び疑問点、問題点を各自把握し理解を深める。このため15回の授業後復習(1時間)及び授業内容に関連する事項について、新聞、テレビ等により理解を深める。毎日(1時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション(家庭支援とは)
2	家庭の意義と機能
3	子育て家庭を取り巻く社会的状況 1 現代の子育て家庭における人間関係
4	子育て家庭を取り巻く社会的状況 2 地域社会の変容と家庭支援
5	子育て家庭を取り巻く社会的状況 3 児童虐待 夫婦間暴力(DV)
6	家庭支援の必要性
7	少子化対策の変遷と子育て家庭への支援体制
8	子育て支援サービスの概要 課題
9	子育て支援における関係機関の連携
10	保育士が行う家庭支援の原理
11	支援の実際 1 保育園通園児の家庭への支援
12	支援の実際 2 地域子育て家庭への支援
13	支援の実際 3 特別な配慮を要する家庭への支援
14	支援の実際 4 児童福祉施設での家庭支援
15	まとめ(全体の復習)
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
課題(2回×20%)=40%、期末試験60%、計100%

**教科書**  
使用しない。  
授業内で適宜資料を配布する。

**参考書・参考資料**  
「保育所指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館  
「保育と家庭支援」株式会社 みらい

**その他(学生へのアドバイス)**  
特になし

授業科目	社会的養護内容				
担当教員	蛭沢 光				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	○

**授業の目的**  
 社会的養護内容を総合的に捉えるために、社会的養護の下で暮らす子どもたちや働く現場職員の方々の実態や生の声を知り、理解し、制度・政策における問題点を自ら見つけ、研鑽することを目的とする。

**授業の到達目標**

1. 社会的養護の実態について説明することができる。
2. 社会的養護に関する資料を読み、自分の意見を様々な形で表現できる。
3. 社会的養護における様々な問題点を自ら見つけ、研鑽し、課題整理の工夫ができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 授業時に配るレジュメの読み直しや整理等を復習として毎回最低 1 時間は行うこと。加えて関連書籍や記事等を自ら見つけ、自分の意見や考えを整理することが望ましい。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション(自己紹介・社会的養護内容とは何か)
2	社会的養護問題を理解する
3	社会的養護の基本理念と原理
4	子どもの権利擁護の実際と難しさ
5	施設養護の実際(小規模化)・ミニレポート①
6	家庭養護の実際(DVD鑑賞:土井ホーム)
7	治療的支援が必要な子どもたち(愛着障害と発達障害)
8	ゲスト講義(社会的養護当事者の語り)
9	社会的養護と地域(子ども・子育て新制度)
10	DVD鑑賞・ミニレポート②
11	社会的養護の子どもたちを支援する民間団体の取り組み
12	ゲスト講義(社会的養護現場奮闘者の語り)
13	社会的養護を必要とする児童の自立支援
14	社会的養護の課題とこれから・DVD鑑賞
15	まとめ(授業内レポート試験)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 授業時のワークシート(30%)、ミニレポート(20%)、レポート(50%)、計100%

**教科書**  
 『児童養護施設の若き実践者のためにどうしようこんなとき!!』  
 長谷川真人編 三学出版(各自必ず購入すること)

**参考書・参考資料**  
 『社会的養護内容』谷口純世/山縣文治編 ミネルヴァ書房

**その他(学生へのアドバイス)**  
 ・遅刻、欠席については本学のルールを厳守する。  
 ・毎回レジュメを配布します。各自ファイル等で整理・管理すること。  
 ・とにかく積極的に意見・質問をしてください。

授業科目	保育相談支援				
担当教員	細江 逸雄				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		○	◎		◎

**授業の目的**  
 保育士の業務において、保護者支援が特に重要な役割となっている。保育士の専門性を生かした保護者支援である、保育相談支援の基本的な視点、実際、支援内容及び方法について学び、保育現場において実践できるための、基礎を修得する。

**授業の到達目標**

- (1) 保育相談支援の意義と原則について理解し説明できる。
- (2) 保護者支援の基本を理解し説明できる。
- (3) 保育相談支援の実際について事例を通して学び、内容や方法を理解し説明できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 オリエンテーションにおいて、各回の授業の内容について説明するので、各回毎に、予習、復習を行うこと。毎回1時間

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション(保育相談支援とは)
2	保育相談支援の意義と視点
3	保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
4	保育相談支援の実際 (1) 保育所入所児童の保護者への保育相談支援
5	保育相談支援の実際 (2) 児童福祉施設における保育相談支援
6	保育相談支援の基本
7	保育相談支援の進め方と連携
8	保育相談支援の実施者として (1) 「私とは」
9	保育相談支援の実施者として (2) 「他者」を理解する
10	保育相談支援の実施者として (3) 「コミュニケーション」とは
11	保育相談支援の実践例 (1) 「育児不安」を抱える母親への対応
12	保育相談支援の実践例 (2) 「発達障害」が疑われる児童の保護者支援
13	保育相談支援の実践例 (3) 「児童虐待」が疑われる事例の対応と支援
14	保育相談支援の実践例 (4) 「児童福祉施設」における事例の対応と支援
15	まとめ・「まとめの課題」(ワーク)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 小テスト1回(20%)、課題1課題(30%)、  
 「まとめの課題」(ワーク)(50%)、計100%

**教科書**  
 使用しない。授業内で適宜資料配布 ワーク課題を提示する

**参考書・参考資料**  
 「演習 保育相談援助」監修/前田敏雄 編集/佐藤伸隆、中西遍彦

**その他(学生へのアドバイス)**  
 特になし

授業科目	子どもの研究Ⅱ				
担当教員	鳥居恵治・梅下弘樹				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
		◎	◎		◎

**授業の目的**  
「子どもの研究Ⅰ」で獲得した知識や技能を踏まえ、現代の子どもをめぐる社会的状況に即した保育実践について、必要とされる基礎的方法の理解を深めると共に、それに伴う表現力、コミュニケーション力等を習得する。更に、多様な場面での応用に関連した実践方法について知識や技能を更に体得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
1. 子どもに関する研究テーマを設定し、主体的に学習することができる。  
2. 研究テーマに関わる教材づくりや表現活動等に主体的に参加し、保育実践における新たな視点を得ることができる。  
3. テーマに関する成果発表をもとに、今後の課題を見つけることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
・未来の保育者としての自覚を持ち、毎回の授業での教材づくりや表現活動等の予習、復習に1時間確保すること。  
・情報収集や図書館を充分活用し、資料・文献収集に心掛けること。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	自分の興味・関心に基いて研究テーマを考える
3	資料・文献の検索方法について(1)図書館等における検索方法
4	資料・文献の検索方法について(2)インターネットによる検索方法
5	レポートのまとめ方(基本スキルを学ぶ)
6	レポートのまとめ方(実践)
7	レポート作成のための資料収集及び執筆
8	レポートの発表及び提出
9	幼児の運動あそびの実践(指導案の作成)
10	幼児の運動あそびの実践(遊びの環境作り)
11	幼児の運動あそびの実践Ⅰ(年長児)
12	幼児の運動あそびの実践Ⅱ(年中児)
13	実践の振り返り
14	発表
15	授業のまとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
各種小課題 30%、レポート 70%、計 100%

**教科書**  
使用しない。  
**参考書・参考資料**  
授業の中で必要な資料・参考文献等の紹介をする。

**その他(学生へのアドバイス)**  
この授業は、担当教員が前半後半で交代する。初回の授業時に配布するプリントで使用教室、教員名を確認し、受講授業に間違いのないよう、十分に注意すること。

授業科目	子どもの研究Ⅱ				
担当教員	野田美樹・平尾憲嗣				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
		◎	◎		◎

**授業の目的**  
「子どもの研究Ⅰ」で獲得した知識や技能を踏まえ、現代の子どもをめぐる社会的状況に即した保育実践について、必要とされる基礎的方法の理解を深めると共に、それに伴う表現力、コミュニケーション力等を習得する。更に、多様な場面での応用に関連した実践方法について知識や技能を更に体得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
1. 子どもに関する研究テーマを設定し、主体的に学習することができる。  
2. 研究テーマに関わる教材づくりや表現活動等に主体的に参加し、保育実践における新たな視点を得ることができる。  
3. テーマに関する成果発表をもとに、今後の課題を見つけることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
・未来の保育者としての自覚を持ち、毎回の授業での教材づくりや表現活動等の予習、復習に1時間確保すること。  
・情報収集や図書館を充分活用し、資料・文献収集に心掛けること。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション 専門性を高めるために必要なことについて
2(4)	社会人としてのマナー 保育者としてのマナー
3(5)	保育教材の生かし方 環境構成について
4(2)	幼児曲について
5(3)	幼児曲の弾き歌いやピアノについて
6(11)	園訪問に向けて①(企画・準備) 研究テーマの設定
7(12)	園訪問に向けて②(準備・練習)
8(13)	園訪問に向けて③(学内発表)
9(14)	園訪問
10(15)	園訪問の振り返り 研究テーマのまとめ
11(6)	音楽を用いた読み聞かせ①(各キャラクターの特徴把握)
12(7)	音楽を用いた読み聞かせ②(物理的な音を伴う表現)
13(8)	音楽を用いた読み聞かせ③(心理的な音を伴う表現)
14(9)	音楽を用いた読み聞かせ④(擬態語的な音を伴う表現)
15(10)	音楽を用いた読み聞かせ⑤(グループ発表・振り返り)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
毎時の振り返り 30%、創作教材・創作活動 30%、成果発表 40%、計 100%

**教科書**  
使用しない。  
**参考書・参考資料**  
随時配布する

**その他(学生へのアドバイス)**  
この授業は、担当教員が前半後半で交代する。初回の授業時に配布するプリントで使用教室、教員名を確認し、受講授業に間違いのないよう、十分に注意すること。

授業科目	保育内容演習(健康)				
担当教員	小野 隆				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 領域「健康」は、乳幼児期に心身の健康の基礎を培い、生活に必要な習慣や態度を身につけ、生涯にわたり健康で安全な生活を送っていくための力を養う観点から示されている。本科目では、保育者として、乳幼児期の子どもの発達段階に合わせた生活習慣(運動・食事・休養など)や安全管理はどうあるべきなのか、そして、子どもの発育発達のための視点の持ち方と関わり方について、実践的に学び、理解することを目的とする。

**授業の到達目標**  
 (1)乳幼児の心身の発育発達や、健康で安全な生活を送るための視点と関わり方について説明することができる。  
 (2)乳幼児の「健康」に関心を持ち、発達段階に合った関わり方について考えや意見を示すことができる。  
 (3)乳幼児の発育発達に関する知識を元にした基礎的な援助技術を工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 自ら積極的に学ぶ姿勢として、教科書等を自宅学習にて精読しておく(毎回1時間)。授業にて映像教材を多用し解説を加えるので、内容理解や事例観察に努めるとともに、感じたこと、深く考えたことや想いを伝えたいことを論述したり互いに共有したりする訓練を行うための準備をすること。

回数	授業計画・内容
1	健康の定義と保育内容「健康」～「車いすのチャリダー」他
2	乳幼児の身体の発育(形態の発育)と身体計測～「トモ君」他
3	乳幼児の器官の発達～「里山保育が子どもを変えろ」他
4	運動の発生とメカニズム～「ケンカで育つ」他
5	乳幼児の運動能力の発達(粗大運動)～「遊んで人間になる」他
6	乳幼児の運動能力の発達(微細運動)～「赤ちゃんの力に迫る」
7	乳幼児の心の発達(情緒・社会性)～「裸で育て君らしく」他
8	乳幼児の心の発達(知的能力・パーソナリティ)～「クロちゃん」他
9	睡眠と健康(生活リズムと自律神経)～「赤ちゃんの新常識」他
10	乳幼児の運動遊びとその必要性～「ごたごた荘の人々」他
11	運動遊びの留意点(幼児に必要な運動遊びとは?)～「夏合宿」
12	運動遊びの指導の留意点～「園長のわんぱく物語」他
13	幼児の事故の実態～「子どもたちと笑いたい」他
14	園における事故の実態とその対策～「笑顔の大家族」他
15	まとめ～「みんな大好き幼稚園教諭」他
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 授業内提出物 70%、グループ発表内容 20%、期末レポート 10%、計 100%  
 授業毎に提出するリアクション・ペーパーの記入内容や文字数・行数など

**教科書**  
 ・「保育実践を支える『健康』」村岡眞澄・小野隆編(福村出版)  
 ・関連資料はその都度配布する。

**参考書・参考資料**  
 「保育所保育指針解説書」・「幼稚園教育要領解説」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレール館

**その他(学生へのアドバイス)**  
 積極的にインターネットの情報などを収集すること。

授業科目	保育内容演習(表現)				
担当教員	滝沢ほだか・山田悠莉・横田典子				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

**授業の目的**  
 本授業では、保育内容領域「表現」について造形・音楽・身体表現分野の関わりから総合的に理解を深め、表現領域と他の領域との関係性や意味を捉えながら創造性を発展させ、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえた上で、保育者の援助方法と発達を考慮した表現活動についても学び、理解を深める。

**授業の到達目標**  
 1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき保育内容「表現」について説明することができる。  
 2. 保育者として音楽、造形、身体表現の3領域を様々な手法で豊かに表現することができる。  
 3. 子どもの表現を支援する技能を身に着ける。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・ 授業内容を振り返りながら、ワークシート、レポート等を毎授業後に作成する(1時間)  
 ・ 子どもの表現に興味を持ち、生活の中で表現に結びつく題材を探す

回数	授業計画・内容
1	保育内容「表現」について、オリエンテーション
2	表現するための基礎を培う(造形)
3	表現するための基礎を培う(音楽)
4	表現するための基礎を培う(身体表現)
5	表現する素材について理解を深める(造形)
6	表現する素材について理解を深める(音楽)
7	表現する素材について理解を深める(身体表現)
8	様々な表現方法の実践(造形)
9	様々な表現方法の実践(音楽)
10	様々な表現方法の実践(身体表現)
11	発展的な表現方法を学ぶ(造形)
12	発展的な表現方法を学ぶ(音楽)
13	発展的な表現方法を学ぶ(身体表現)
14	表現発表会(3領域の関わりを総合的に学ぶ)
15	まとめ(全体を振り返って)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 各分野(造形・音楽・身体表現)の評価(小レポート含む)  
 30%×3分野=90%、テスト10%、合計100%

**教科書**  
 「保育内容「表現」-からだで感じる・表す・伝える-」猪崎弥生編著 杏林書院  
 「造形のじかん」佐善圭編著 愛智出版

**参考書・参考資料**  
 なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
 この授業は、各分野をローテーション方式で行うものとする。初回の授業時に配布するプリントで使用教室等を確認し、受講授業に間違いがないよう、十分に注意すること。音楽の授業時には「楽器を扱い舞台上で動ける服装」、身体を動かす授業時には、必ず「動くことが出来る服装」、造形の授業時には、「汚れてもかまわない服装」で出席すること。必要な持ち物は、掲示などを通して、あらかじめ伝達する。持ち物を忘れると受講できない授業もあるので充分注意すること。

授業科目	児童文化演習				
担当教員	上田 信道				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎		◎	

**授業の目的**  
 児童文化財(玩具・遊び・わらべ唄・近代以降の子ども歌・昔話・子どもとメディアなど)の成り立ちや受容のありようについて、理論的・実践的に学ぶ。

**授業の到達目標**  
 ・ 児童文化財の成り立ちや受容のありようについて、理論的・実践的に学び、説明することができる。  
 ・ 児童文化財に関する基本的知識の習得とともに、子どもたちに児童文化財を享受させる上で必要な技量を習得する。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・ 1～14 回まで毎回の授業の予習・復習等  
 ・ 授業中に指示する参考文献等の読書 10 冊  
 ・ 最終課題の準備  
 (合計 15 時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーションと総論 「児童文化演習」でどのようなことを学ぶか
2	玩具や遊びの歴史と実際(1)
3	玩具や遊びの歴史と実際(2)
4	伝承わらべ唄と遊び
5	昔話・伝説・神話
6	子どもの歌(1)唱歌
7	子どもの歌(2)童謡
8	近・現代の童話と児童文学
9	日本に於ける外国の昔話・童話の受容(ジェイコブズなど)
10	日本に於ける外国の昔話・童話の受容(ペロー、グリムなど)
11	紙芝居の選択・技術・実演(1)
12	紙芝居の選択・技術・実演(2)
13	絵本の読み聞かせや昔話・童話の朗読の技術と実際
14	児童文化とメディア(レコード・ラジオ・映画・テレビなど)
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 授業での発表内容や発言内容ほか 20%、実技の習得状況や提出物ほか 10%、筆記試験(テキスト・ノート持ち込み可) 70%、計 100%

**教科書**  
 原昌・片岡輝 編著『児童文化』(建帛社)

**参考書・参考資料**  
 必要に応じて紹介する。

**その他(学生へのアドバイス)**  
 発表にあたっては、事前に指示された内容と形式に沿って発表レジュメを作成すること。

授業科目	児童文化演習				
担当教員	鈴木 穂波				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎		◎	

**授業の目的**  
 子ども文化についての基本的な知識を身に付け、子ども文化財の子ども生活への関わりを理解する。また、子ども文化財を保育へ展開するために必要な知識や技能を修得する。

**授業の到達目標**  
 ①子ども文化とはどのようなものかを理解することができる。  
 ②子ども文化財と子ども生活との関わりについて、自分の考えを発言や文章で示すことができる。  
 ③子ども文化財を保育へ展開するために必要な知識や技量を実践的に修得し、工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・予習(課題作成や実践準備)のため合計 8 時間  
 ・復習(レポート作成や筆記試験)のため合計 7 時間

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	「子どもの文化」と「児童文化」
3	子どもの文化財の役割と活用法(1)絵本①絵本と子どもの発達
4	子どもの文化財の役割と活用法(2)絵本②絵本を用いた実践
5	子どもの文化財の役割と活用法(3)わらべ唄、手遊び
6	子どもの文化財の役割と活用法(4)紙芝居
7	子どもの文化財の役割と活用法(5)パペット
8	子どもの文化財の歴史的背景(1)わらべ唄、後半に向けて
9	子どもの文化財の歴史的背景(2)おもちゃ
10	子どもの文化財の歴史的背景(3)紙芝居・絵本
11	子どもの遊びと生活(1)遊びと子ども
12	子どもの遊びと生活(2)伝承遊び①伝承玩具
13	子どもの遊びと生活(3)伝承遊び②戸外遊び
14	絵本と子ども
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 授業時のワークシート 30%、レポート 30%、課題 20%、筆記試験 20%、計 100%

**教科書**  
 『絵本から学ぶ子どもの文化』浅木尚実／編著 同文書院

**参考書・参考資料**  
 随時提示

**その他(学生へのアドバイス)**  
 課題作成のため、各自で準備が必要なものがある。また、絵本についても各自持参する。

授業科目	教育方法論				
担当教員	大倉 健太郎				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

### 授業の目的

教育方法論、とりわけ保育の方法に焦点を当て、その概要について受講生が把握することを目的とする。  
幼稚園や保育所で行なわれる保育方法や実践は、西欧から学ぶ形で日本へと導入されており、後に「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」、さらには地域の実情に即して各園が保育を実践するに至っている。本講では歴史に遡ることで、受講生が多岐に渡る保育の方法や遊具や教材活用の方法、保育者の援助のあり方など整理することで、自身の保育に自覚的に活かせることを目的とする。

### 授業の到達目標

1. 保育方法のはじまりについて説明できる。
2. 「恩物」をはじめとした遊具の活用と展開について説明できる。
3. 保育環境に対する考え方や活用の仕方と、保育者の援助について説明できる。

### 自修について(予習・復習内容等)

1. 事前にテキストに目を通し、わからないこと等を列挙しておく(毎時2時間)
2. 授業の内容を振り返り、次への課題を自分なりに整理する(毎時2時間)

### 回数 授業計画・内容

回数	授業計画・内容
1	わが国における保育実践のはじまり(幼稚園の設立について)
2	わが国における保育実践のはじまり(託児施設誕生について)
3	子ども理解と評価
4	保育計画の実践と変遷(明治期から現在まで)
5	保育計画の実践と変遷(教育課程と指導計画について)
6	保育形態の多様化
7	保育環境の充実
8	保育方法の展開とその課題について(中間のまとめ)
9	保育者の援助の広がり(言葉かけについて)
10	保育者の援助の広がり(乳児保育・障がい児保育について)
11	園行事と生活の充実
12	家庭との連携と子育て支援
13	小学校との連携
14	情報教育メディア
15	新たな教育・保育の方法への模索(総括)
16	期末試験

### 成績評価の方法・基準

- ・原則、すべての授業に出席すること。
- ・中間試験50%、期末試験50%、計100%

### 教科書

柴崎正行編『保育方法の基礎』わかば社

### 参考書・参考資料

随時、資料を配布する

### その他(学生へのアドバイス)

15回すべての授業に出席するよう努めること。2単位の取得には、60時間の予習復習が求められており、本授業はすべての学生が予習してきているものとして進められることを理解しておくこと。最終回後に、この授業で学んだことをまとめ、教職実践演習(幼稚園)等に備えること。

授業科目	保育カウンセリング				
担当教員	丸山 笑里佳				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		○

### 授業の目的

保育者には、子どもや養育者を理解し、支援することが求められ、近年では特に保育者が子育て支援を行うことの重要性が指摘されている。この授業では、子どもと養育者に対する支援を行うために必要な知識を身につけ、個別の支援を考え、工夫できるようになることを目的とする。

### 授業の到達目標

1. 乳幼児期の子どもの発達を理解に基づいて、子育てや保育・教育場面で生じる様々な問題と基本的な対応を説明できる。
2. 発達面や情緒面の困難を抱える子どもに対する個別の配慮や対応を考えることができる。
3. 養育者からの相談に対して、養育者と共に考え、子育て支援を行うための工夫ができる。

### 自修について(予習・復習内容等)

- 1~14回まで毎回の授業につき予習復習等1時間  
授業の復習および課題に取り組むことに加え、発達と教育の心理学、発達と教育の心理学演習をはじめ、関連する教科の復習を行うこと。
- 14回目 試験準備として1時間

### 回数 授業計画・内容

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	カウンセリングの理論と技法(1)精神分析理論
3	子どもの発達(1)子どもの心の発達(1)子どもの心の発達(2)子どもの心の発達(3)
4	子どもの発達(2)乳幼児期に起こりやすい心の問題のサインと対応
5	事例の検討(1)子どもの心の問題への対応
6	子どもと家族の問題
7	子どもの発達(3)発達障害の理解と対応
8	事例の検討(1)「気になる子」について考える
9	子どもの理解の方法(保育現場におけるアセスメント)
10	心理・発達検査の実際
11	事例の検討(3)専門機関との連携
12	カウンセリングの理論と技法(2)来談者中心療法、プレイセラピー、認知行動療法、家族療法
13	事例の検討(4)子育ての中で対応が難しい問題
14	事例の検討(5)精神的に不安定な養育者への対応
15	授業のまとめ
16	なし

### 成績評価の方法・基準

筆記試験 60%、演習課題 20%、ブリーフレポート 20%、計 100%

### 教科書

なし。毎回資料を配布または提示する。

### 参考書・参考資料

「子育て支援のための保育カウンセリング」(ミネルヴァ書房)  
「改訂新版 保育カウンセリングへの招待」(北大路書房)

### その他(学生へのアドバイス)

配布された資料は整理し、毎回持参すること。



授業科目	教職実践演習(幼稚園)				
担当教員	平尾憲嗣・野田美樹・米窪洋介・渡部努				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		○	◎	◎	○

授業の目的	保育者に必要な資質能力を再認識し、これまでの学修全体をまとめていく演習を通して、保育現場における実践を担うことのできる力量の形成を目的とする。
-------	---

授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生のこれまでの学習内容や理解度を踏まえ、保育者になるにあたって不足している知識や技能を補うとともに、場面に応じた対応方法を身に付けることができる</li> <li>2. 作品制作や活動発表を通して子どもたちとのコミュニケーションの回り方を身につけ、作品や発表から発展・展開する遊びの時間を子どもたちと共有することができる</li> </ol>
---------	--

自修について(予習・復習内容等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時の学習を記録し、前回の省察をもとに新たな課題を見出す</li> <li>・授業で課された課題(レポート、ワークシート)について、自らの不足している知識や技能を補えるよう、課題意識を持って取り組む(1時間程度)</li> <li>・保育内容実践研究発表に向け、作品制作等にグループおよびクラス単位で取り組む(1時間程度)</li> </ul>
------------------	--

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション 教職実践演習で学ぶべきこと
2・3	2年間の学修を振り返って (履修カルテの記入・教育課程・保育課程について)
4・5	指導計画の重要性を学ぶ (長期指導計画・短期指導計画・月の指導計画)
6	保育内容指導力について(講義・グループ討議)
7	子ども理解と学級経営について(学級経営案作成)
8・9	保育者の役割・仕事内容について (付属幼稚園に出向・観察実習、記録)
10・11	保育者の意義・子どもに対する責任について (見学を受けて付属幼稚園園長より講話)
12	保育内容の実践研究(1)企画案作成
13	保育内容の実践研究(2)企画案検討
14	保育内容の実践研究(3)グループ討議・発表
15	中間のまとめと振り返り
16・17	保育内容の実践研究(4)模擬保育(指導計画立案)
18・19	保育内容の実践研究(5)模擬保育(実践)
20・21	保育内容の実践研究(6)模擬保育についてのグループ討議
22・23	保育内容の実践演習(7)ロールプレイング
24・25	保育内容の実践演習(8)発表
26~29	保育者の資質・指導力について(グループ発表)
30	実践力の仕上げについて振り返り(履修カルテの記入を含む)

成績評価の方法・基準	毎時の記録 50%、演習課題の成果 50%、計 100%
------------	------------------------------

教科書	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」
-----	--

参考書・参考資料	
----------	--

その他(学生へのアドバイス)	学習の記録(履修カルテ)の記入内容を踏まえ、自らの課題を明確にして課題解決に向けて取り組むこと
----------------	---